



## 森合資会社

擬洋風建築の事務所と隣接する店蔵、石蔵が連なる森合資会社の佇まいは、本町一・二丁目を中心とする重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）の歴史的なまち並みを引き立てる。

創業家である森家は19世紀前半に近江から桐生新町に移ってきたとされる。明治15（1882）年に関東東北七県連合生糸織物共進会が買場通りで開催されると、翌年からは定期市が開かれるようになる。そこで金融業を営み成功した二代目森宗作氏は土地経営と併せて一大財産を成し、第四十銀行の頭取就任や桐生織物学校、桐生高等女学校の設立など幅広い分野で地域に貢献した。明治33（1900）年には桐生倶楽部の前身である桐生懇話会を設立。懇話会では商工会議所の設置についても討議され、森氏は地域の盟主として地域経済をけん引した。「森家は人の役に立つことを優先し事業化してきた」と同社・森壽作会長。森会長自身も重伝建の選定やまちづくりに尽力し、長年地域の盛り立て役を担ってきた。

同社は明治37（1904）年5月、前身の森商店を経て創業。金融とともに当時日本で誕生したばかりの保険商品を扱い、現在まで続く保険代理店としては国内最古級の企業である。また、創業時の資本金10万円は現代では相当な価値であり、森家の財力とそれに伴う地域での影響力がうかがえる。

大正3（1914）年に建てられた白磁タイル張りの事務所と、それ以前に建てられたとされる店蔵による和洋一体の姿は大正期の商店建築を今に伝える。隣接する石蔵（旧穀蔵）も大正3年の建築で、現在は天然染色研究所として利用されている。いずれも国の登録有形文化財で、特に事務所では100年以上たった現在も、創建当時の姿のまま創業時の事業が営まれており歴史的にも価値が高い。百年企業を背負う森昭寿代表社員は「歴史に誇りを感じつつ経営者として攻める姿勢も大切にしたい」と、桐生発展に寄与した森家の子孫として、貴重な建物とともに挑戦する志も引き継いでいる。



大正期の佇まいを伝える  
祖業で歩み続ける百年企業

●住所／桐生市本町1-3-11 ●電話／0277-22-2001

参考：桐生市ホームページ（<http://www.city.kiryu.lg.jp>）、きりゅう百景（佐々木正純著）

森合資会社は観光施設ではありません。無許可での敷地内への立ち入りはご遠慮ください。